

物語と人形～ミニ展示「ひなまつり」から～

引間 隆文

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、本年の「飯能ひな飾り展」は中止になりました。昨年は実施期間が短縮でしたので、2年連続で残念な結果となりました。



ミニ展示「ひな祭り」展示風景

当館では3月7日まで、例年より展示点数を絞るなどの工夫をしてミニ展示「ひな祭り」を行いました。小規模でも有意義な展示とするため、昔の民家を再現した空間に展示したり、物語などを題材とした人形のコーナーを設けたりしてみました。「人形の数が少ない」というご意見もありましたが「人形が持つ文化的背景を学ぶことができた」との感想もありました。

ひな祭りには、男びな・女びなを中心としたひな人形の他に、「浮世人形」などと呼ばれる物語などを題材とした人形を共に飾ることがあります。浦島太郎のようにおなじみの物語を題材とした人形もありますが、中には基となった物語が分かりにくくなってしまった人形もあります。例えば、写真の人形です。高貴な女性と傘を持ったお供の男性の人形のように、さて、これは何の物語の人形でしょうか？

実は、「雨乞小町」と呼ばれる小野小町伝説を題材とした人形なのです。

小野小町は、平安前期の女流歌人です。生没年など詳細はほとんど不明で、数多くの伝説に彩られた人物です。「雨乞小町」も小町伝説の1つで、日照りの折に勅命で小町が和歌を詠んだところ、たちまち雨が降ったという物語です。後に、

浄瑠璃などとなって一般に広まると、浮世絵の題材としても良く用いられるようになりました。

浮世絵には、「見立絵」と言って良く知られた伝説や故事などの題材を当世風になぞらえて描いた作品がありました。「雨乞小町」は、見立絵の題材としても人気でした。短冊状の紙や傘などが雨中の美人と共に描かれていれば、当時の人々は小野小町を連想し、物語世界に遊ぶことができたのでした。

今回展示した小町人形は、大正から昭和初期のもので、少なくともその頃には、「雨乞小町」の物語をひな飾りの一部として楽しむことができる人たちが、飯能にも普通にいたと言えます。

今と比べて昔は識字率も進学率も劣るはずですが、傘と女性という組み合わせで平安朝の女流歌人にまで思いを馳せ、物語の世界で遊ぶことができた先人たちの心の豊かさには、憧憬の念すら覚えます。

来年のひな祭りが、ひな巡りに訪れた多くの方々にこれらの人形をじっくりと見ていただける状況になっていることを願うばかりです。